

頑張ってきたもので未来を掴む



教育委員 宮田昇子

道内公立高校入試が変わってきています。例えば今年度入試においては、学力検査で学校裁量問題がなくなり、全ての受験生が同一の問題を回答することになりました。得点も各教科60点、5教科300点満点から、各教科100点の500点満点へ。試験時間も各教科45分から50分となりました。全教科で、基礎的・基本的な知識・技能と、思考力・判断力・表現力などをバランスよく問うことが目的です。また、英語におけるリスニングの配点割合が上がっています。

来年度入試にも大きく2点の変更があります。一つは出願変更時の学科制約の撤廃です。公立高校入試では、最初の出願後に1回のみ出願先の変更ができますが、これまでは普通科から職業学科には変更できないなど学科の選択に制約がありました。来年度からは学科に関係なく出願変更することができます。

二つ目が推薦入試です。これまでの中学校長推薦に代えて、自己推薦が導入されます。高校が求める生徒像と中学校から推薦される生徒とのミスマッチを防ぐこと、中学生の進路選択の幅を広げることなどが狙いとなっています。

自己推薦の様式案によると、その高校に入学したい理由や入学後の抱負、中学校での各教科や総合学習において自分が特に頑張ったこと、学級活動・生徒会活動・学校行事・部活動・ボランティア活動・その他の活動等を通して学んだこと、取得した資格や検定結果などを、中学生自身がアピールするようです。

志望する高校の「入学者の受け入れに関する方針（スクール・ポリシー）」に合うと思った中学生が自らを推薦という流れになり、個人的にはとてもいいことだと感じています。自分が自己推薦入試に値するかを判断するのは自分自身。3年間の己を客観的に評価する力も求められているのでしょう。その上で、自分には誇れるものがあると胸を張れたら素晴らしいこと。中学校生活で頑張ってきたことや、力を入れて取り組んできたことなどを、ぜひ思い切り、自分の言葉で表現してほしいと思います。その熱量も大事。

さまざまな場面・分野で活躍している弟子屈の子どもたち。培ってきた学びや積み重ねてきた体験・経験が、進路実現の糧となることを楽しみにしています。

教育委員コラム

Column of the member of the board of education

No. 33

2022/8

発行／弟子屈町教育委員会
教育長 岩原 勝行
教育長職務代理者 金井 秀明
委員 菅原 誓之
委員 吉田 一徳
委員 宮田 昇子

3年ぶりに全道研修会開催

教育長 岩原 勝行

7月15日、3年ぶりに北海道市町村教育委員会研修会が札幌市教育文化会館で開催されました。

本町からは、私と金井教育長職務代理者の2名が出席し、文教施策に対する要望事項の確認、道教委教育委員の講話「世代別コミュニケーションの取り方」、文部科学省から教員免許更新制解消を踏まえての「教師の資質能力の向上について」の説明、フォーラムでは遠別町の佐藤教育長から「遠別農業高校の存続とICT教育」、更別村の荻原教育長から「小さな村が地域の力を借りて行う教育の推進」の2町村からの事例発表など、有意義な情報の共有と他町村の取り組みを知る機会となりました。



図書館バスに乗って

教育長職務代理者 金井 秀明



今年の4月から図書館バスの運転手をしています。週1回木曜日だけの勤務ですが、図書の貸し出し返却業務も行っていきます。

図書館バスの存在は知っていましたが、今まで利用したことは一度もありませんでした。町内のこども園や保育園、小中学校や老人介護施設、病院、JR川湯温泉駅や支所などに立ち寄ります。コロナ禍でバスに乗り込めない場所もあるのですが、その場合にはコンテナで本の貸し出しを行います。小規模校などはバスの到着を心待ちにしている、到着が4分遅れたときには、国道までバスを覗きに行っていたとの話も聞きました。バスが来るのを楽しみにしているご家族や毎回本を10冊ずつ借りられる方もおり、本当にありがたいことです。積んでいる本もそう多くはないのですが、本の背表紙を眺め、本を抜き出す時の目は、大人も子供も輝いています。

第61回 弟子屈高校学校祭

教育委員 菅原 誓之

7月16日、弟子屈高校学校祭のダンス発表を見学させていただきました。

感染症対策のため、学校に立ち入ることはできないが、ダンスの披露のみ「摩周の里夏まつり」の会場で見る事ができた。

当日はあいにくの雨模様だったが、何とか各種イベントが行われ、高校生も各学年とも一生懸命練習した成果を精一杯発揮し踊っていた。

考えてみれば、大勢の観客の前で発表するのは、1年生はもちろんのこと、2・3年生もコロナの影響で初めてのダンス。

特に3年生は最初で最後の経験となったはず。でも、沢山の父母や地域の方々のおかげで手拍子の中、一人一人が輝いていた。



サウンド高らかに

教育委員 吉田 一徳

7月16日に釧路川ふれあい広場にて、摩周の里夏まつりが開催され、弟小と弟中の吹奏楽サウンドが演奏されました。

小雨混じりの空模様の中、演奏者は今年度初の演奏だったので、やや緊張した面持ちでしたが、始まっしまえばとても良い演奏でした。

しかしながら二言三言いえば、広場が雨のために非常に滑りやすいこと、楽器の搬入等に広場まで車が入っていけないなら、もっと使いやすいのにと思いました。



菅原委員に功労者表彰

教育委員 宮田 昇子



本町教育委員の菅原誓之氏が、令和4年度北海道町村教育委員会連合会功労者表彰を受賞されました。

同表彰は、町村教育委員として12年以上在籍し、地域や北海道の教育振興に尽力された方に贈られます。今年度は24名が受賞しました。

菅原委員は平成21年(2009)年8月1日就任。この夏で14年目を迎えました。地域の皆さんと行政の懸け橋となり、町の教育・文化・スポーツ発展のため力を注いでいます。

中体連や高体連、吹奏楽コンクール…。多くが夏までに部活動のメインとなる大会を終え、3年生は引退を迎えます。

部活動の魅力は、好きなことに全力で打ち込めるのはもちろん、クラスや学年を超えたコミュニティの中でお互いを高め合い、絆を深めていくこと。そんな部活動において3年生の引退というのは後輩にとっては大きな出来事で、特に1年生が3年生といられる時間は意外と短いのです。

3年生の引退が近づいたある日、1年生部員がつぶやいた一言。「この3年生と部活ができて幸せだった」慕われた先輩も、憧れ続けた後輩も、かけがえのない時間を紡いだのだなと心を打たれました。そうした時間が大会当日に垣間見えるからこそ、応援する側も胸が熱くなるのでしょうか。(宮田)

編集後記